シリーズ13

百周年を迎えて

愛知淑徳短期大学は昭和36年に開学、家政科から始まり、
38年に国文科、40年には英文科を開設しました。
昭和44年4月、各学科の名称がそれぞれ家政学科、国文学科、英文学科へと変わり、62年にはコミュニケーション学科が新設されました。
卒業生に学園の思い出を語っていただくシリーズの第13回は、
第25回英文学科卒業生の山内めぐみさんに登場していただきました。

読解の膨大なページ数を予習するため、友人と分担していました。

愛知淑徳短期大学英文学科第25回卒業生
（平成2年度卒業）

山内めぐみさん（旧姓：小林）

昭和45年生まれ。現在37歳。
卒業後、NECソフトウェア中部に入社し、社長秘書として8年間勤務。
23歳で結婚、29歳での出産を機に退職。前後して、インテリアコーディネーター、宅地建物取引主任者、福祉住環境コーディネーターの資格を取得。
平成14年、ご主人と不動産会社を創業。
3年前から「韓流ブームに乗せられて」、趣味で韓国語を勉強している。

高校は公立で、両親や先生と相談して、第一希望で淑徳短大を受験しました。10月1日の衣替えの日、新聞に淑徳中高の制服の写真が載っているのを見て、以前から淑徳へのあこがれはありましたね。学科は将来的に役立つのではないかと、英文学科を選びました。

入学して、まず施設が充実しているのにびっくりしました。LL教室には一人一台、録音再生機が内蔵されていて、先生と応答したり、自分の発音を確認したりできる。公立高校から来たので、まずそれに驚きました。

授業は厳しかったですね。ほかの学科の科目は通年で4単位取れるのに、英文学科は1年で2単位の科目が多く、単位取得も大変でした。授業はほぼ毎日4コマ入れていて、部活はやっていませんでした。

特に厳しかったのは、担任の大野（清幸）先生（現在は文化創造学部多元文化専攻教授）です。理由のいかんを問わず3回欠席すると単位がもらえない。出欠カードを1人ずつ助手の方に渡して確認するので、代返は考えられませんでした。夏休みと冬休みにそれぞれ10枚の英文レポートが出たり、TOEICも年に2回受けなければ単位をもらえなかったり。

夏休みなど、これまでこんなに頑張って勉強したことはないというくらい、一生懸命レポートを書きました。愛知県図書館や鶴舞図書館に通って文献を調べたり、丸善で資料を購入したり。レポートにかかりきりの夏休みでしたね。

でもレポートのテーマが世界情勢や環境問題で、社会に出てからその話題を見聞きしたりすると、教養として身に付いているのかなと感じたりします。それに卒業後に入った会社でもTOEICを受けなければならず、在学中に受けていてよかったと思います。

英文学科は読解に力を入れていて、先生がチョイスされた書籍を読むのですが、予習しないとついていけませんでした。でも膨大な量なので一人では手に負えず、このページは誰々担当と、友達とよく分担していました。予習せずに授業に出ると、先生から「何しに来たの？」みたいに言われるので、真面目に予習していましたね。すごく難しくて、半年で5ページくらいしか進まなかった小説もあるんですよ。

ゼミは小野（迪雄）先生（英文学・英文学演習）の、ヘンリー・ジェイムスの「デイジー・ミラー」を読解するゼミへ入りました。家で何度も原語と日本語訳の本を読み比べながら、主人公の愛の軌跡について30枚の卒論を書いたのを覚えています。

入学後、友達ができるか不安でしたが、すぐに8人のグループができました。淑徳高校からの4人と、外部からの4人。5月にはもう大阪の花博へ出かけたんですよ。いつも一緒にいて、よく遊んだり旅行にも行きました。卒業旅行は海外へ行くつもりが、ちょうど湾岸戦争が起きた頃で、親にテロが怖いから海外はだめだと言われて、北海道へスキー旅行に変更しました。

7人とはずっと仲が良くて、今は皆、子育てで忙しいのですが、それでも年に2～3回、コンスタントに会っています。ご主人と飲食店を経営したり、現役の時はフライトアテンダントとして飛び回っていたり、お寺のお庫裡さんとして頑張っていたりと、皆がアクティブに活躍していて、すごく刺激になりますね。淑徳ではこの7人と出会えたのが一番よかったことだと思います。

卒業後はNECのグループ会社であるソフトウェア会社へ入りました。受付接遇とかVIPのお客様のご案内などをする際に多少、英語を使うことがあり、在学中に学んだことが生かせたのではないかと思います。（談）

完成間もない記念会堂で開かれた入学式。前列の白いワンピースが山内さん

東急ホテルで行われた謝恩会。右から2人目が山内さん

結婚式で、恩師の小野先生と仲良しのグループに囲まれて